

価値ある2日間

グローバルフェスタにボランティアとして参加して

堤 浩亮

2011年3月11日、東日本で深刻な事態が起きてしまいました。それ以降、(災害)ボランティアという言葉がメディアなどでよく耳にするようになりました。

そこでボランティアというものに多少興味を抱くようになり、インターネットで偶然見つけた東京ボランティア・市民活動センターの説明会に参加しました。

その説明会でNPO法人日韓アジア基金・日本の大澤さんの話を聞き、カンボジアの現状(主に教育面)を知りました。それをきっかけに無能な自分でも何かお手伝いできることがあればと思い今回の活動に参加させていただきました。

グローバルフェスタでの活動について述べさせていただきます。今回の活動は主にパンフレットの配布と募金集めでした。

ブースでのパンフレット配布の際に感じたことを以下に書いてみようと思います。



予想以上に多くのブース前を通る方たちがパンフレットを受け取ってくださったことに驚いています。またさらに驚いたことはパンフレットを受け取らなかった方の大半が無視をせず、頭を下げるなどの行為をして断っていたことです。グローバルフェスタに訪問する方たちの温かみを肌で感じることができました。それと同時に街中などでティッシュ配りをしている人の前をスルーしてきたこれまでの自分を恥ずかしく思いました。

募金の方もたくさん集まったので良かったです。募金をしてくださった方々の想いが詰まったお金が子どもたちの教科書へと変わるのかと思うと感慨深いです。

自由時間には折角の機会なのでいろいろなブースを回ってみることにしました。想像以上に多くの団体があることに驚きました。

また、『日比谷公園を「絆」の絵で埋め尽くそう！プロジェクト』で、東日本大震災では世界中から温かい支援の手が、世界各地の子どもたちから何千もの絵画やメッセージが寄せられていました。女川などの児童たちはがんばっている姿を伝えよう、と「私の10年後」を描いていました。さらに東京の子どもたちの絵もありました。絵一枚一枚がリアルで重みがあり、感動してしまいました。一日も早い復興を心よりお祈りします。

話は変わりますが、今回の活動には学生、社会人などさまざまなバックグラウンドを持った方たちが参加していました。いろいろな方たちのお話が聞けてとても新鮮でした。特に社会人の方のお話はとても勉強になりました。より多くの人のお話を聞き、さまざまな視点から物事を見ることの大切さを改めて確認することもできました。皆様にお会いできたことに本当に感謝しています。

今回の2日間の経験は自分にとってお金や物にはかえることのできない大きな財産です。貴重な体験ができて良かったと心から思います。また、今回の体験をできるだけ多くの人に伝えていきたいです。一人でも多くのカンボジアの子どもに教科書が行き届き、しっかりと教育が受けられるようになる日が一日も早く来ることを心より願います。そしてカンボジアの子どもたちに学ぶことの楽しさを知っていただけたら幸いです。

拙い文章で読みづらい部分もあったかと思いますが、最後まで読んでいただきありがとうございます。